



2024年3月期 第1四半期 決算補足説明資料

2023年 7月31日(月)

ウェーブロックホールディングス株式会社
証券コード:7940
(東証スタンダード市場)

■ 売上高 6,128百万円（前年同期比+4.5%）

- 上期予想進捗率49.0%
- 米国自動車メーカー向けパーツ成形販売、テレビモニター向け導光板の仕入販売の開始が増収に寄与
- 原材料価格上昇分の売価転嫁

■ 営業利益 503百万円（前年同期比+46.9%）

- 順調に推移。上期予想進捗率173.5%
- 原材料価格上昇分の売価転嫁などにより利益率改善
- 自動車向け販売は米国パーツ成形工場立ち上げなどにより減益。歩留まり率向上が今後の課題

■ 当期純利益 306百万円（前年同期比△86.0%）

- 営業利益好調により上期予想進捗率180.2%
- 前年同期はクリアナイト(株)(旧(株)ウェーブロックインテリア)株式売却益などの計上があったため減少

営業利益以下の第1四半期実績が、上半期および通期予想を超過

- ① ホームセンター向け販売を行うリビングソリューション分野(マテリアルソリューション事業)において、原材料価格上昇分の売価転嫁や生産性向上が奏功し利益に大きく貢献
- ② 第1四半期は原材料価格およびエネルギーコストが期初想定より低位に推移

(単位:百万円)

	2023年 3月期 第1四半期 (実績)	2024年 3月期 第1四半期 (実績)	増減率	5/12 公表 上期予想	5/12 公表 通期予想
売上高	5,863	6,128	+4.5%	12,500	24,500
マテリアル	4,896	4,887	△0.2%	-	19,000
アドバンスト	969	1,243	+28.2%	-	5,500
営業利益	342	503	+46.9%	290	300
マテリアル	421	710	+68.7%	-	680
アドバンスト	115	△44	△138.4%	-	300
その他	△194	△163	-	-	-
経常利益	466	521	+11.8%	330	340
当期純利益	2,194	306	△86.0%	170	170

- RP東プラ(株)の持分法利益(通期約100百万円)を第2四半期以降計上。経常利益以下の予想変動
- 第1四半期実績を受け、売上高・営業利益見通しを修正。上期・通期の業績予想に反映
 - マテリアルソリューション事業:販売数量減。売上高は想定を下回る見込み。第1四半期好調のリビングソリューション分野は第2四半期以降シーズンオフ。利益獲得は限定的
 - アドバンステクノロジー事業:北米・中国市場でのフィルム販売が当初想定を下回り利益に影響。営業利益予想下方修正によりさらに前期比減となるも、EBITDAでは前期並み。先行投資に伴う償却負担などにより成長踊り場局面ではあるが、短中期的な成長期待は揺るがない
 - 原材料価格:国産ナフサ価格は下落傾向にあるものの原材料価格は高止まり。第2四半期以降、ナフサ非連動の原材料値上げ圧力に加え、エネルギーコスト上昇の影響も

(単位:百万円)

	2024年 3月期 第1四半期 (実績)	5/12 公表 上期予想	上期予想 修正	増減額	増減比	5/12 公表 通期予想	通期予想 修正	増減額	増減比
売上高	6,128	12,500	11,500	△1,000	△8.0%	24,500	23,500	△1,000	△4.1%
マテリアル	4,887	-	-	-	-	19,000	18,000	△1,000	△5.3%
アドバンス	1,243	-	-	-	-	5,500	5,500	-	-
営業利益	503	290	300	+10	+3.4%	300	370	+70	+23.3%
マテリアル	710	-	-	-	-	680	900	+220	+32.4%
アドバンス	△44	-	-	-	-	300	150	△150	△50.0%
その他	△163	-	-	-	-	-	-	-	-
経常利益	521	330	350	+20	+6.1%	340	500	+160	+47.1%
当期純利益	306	170	180	+10	+5.9%	170	270	+100	+58.8%

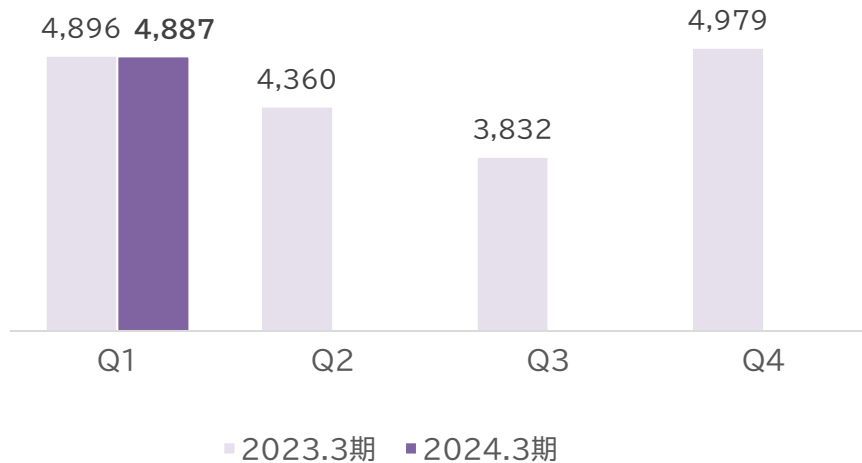
セグメント別情報

(単位:百万円)

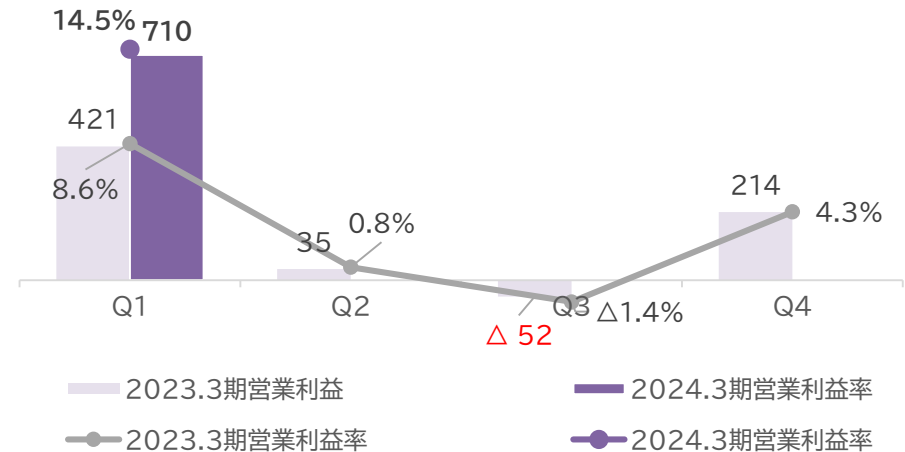
	2023年3月期 第1四半期 (実績)	2024年3月期 第1四半期 (実績)	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
売上高	5,863	6,128	+265	+4.5%
材料ソリューション	4,896	4,887	△ 9	△0.2%
アドバンステクノロジー	969	1,243	+273	+28.2%
その他	△ 2	△ 1	-	-
営業利益	342	503	+160	+46.9%
材料ソリューション	421	710	+289	+68.7%
アドバンステクノロジー	115	△44	△ 160	-
その他	△ 194	△ 163	-	-

単位:百万円

売上高



営業利益・営業利益率



リビングソリューション:

- ・ サッシメーカー向けは好調もホームセンター向け販売は客足が伸びず販売数量減少。製品価格値上げの取り組みにより増益

ビルディングソリューションおよびインダストリアルソリューション:

- ・ 前年同期好調だった防煙垂壁向け高透明不燃シート販売が減少も、仮設工事関連向け、路面標示材が堅調に推移。利益では原材料価格上昇分の売価転嫁値上げ効果により増加

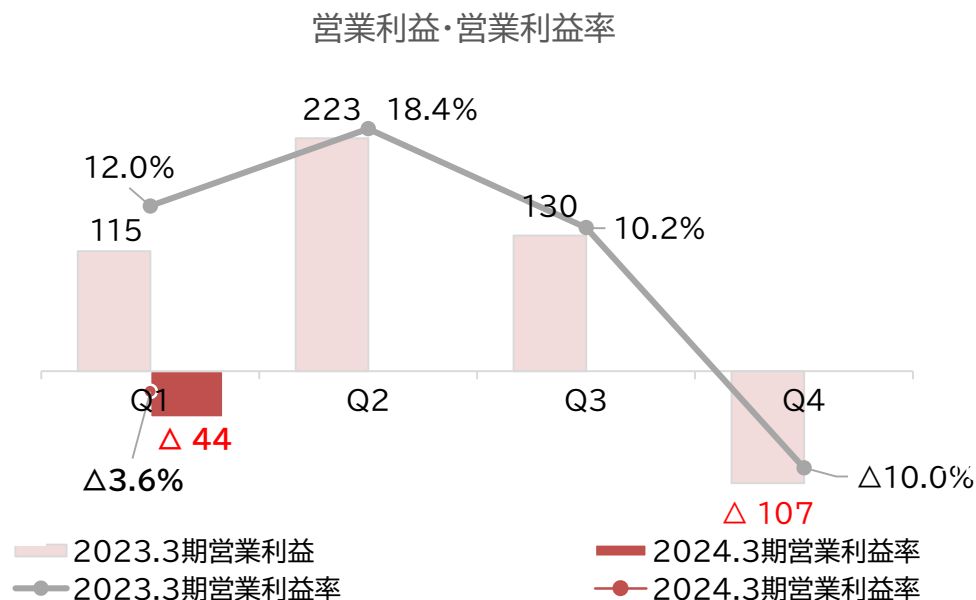
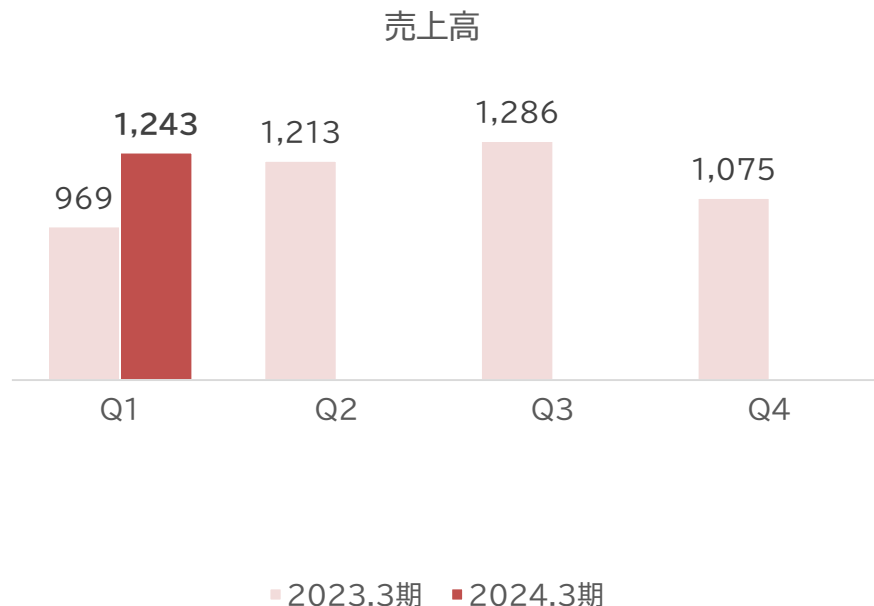
パッケージングソリューション:

- ・ 原材料価格上昇分の売価転嫁値上げや販売数量の増加により増収。原材料価格上昇分の売価転嫁値上げ効果や生産数量増加に伴う効率改善などにより増益

アグリソリューション:

- ・ 林業向けの好調により土木資材は堅調。農業資材は各種キャンペーンの効果により一部製品は堅調も、エネルギーコスト上昇により国内農業生産者による資材への投資意欲が減退し苦戦

単位:百万円



デコレーション&ディスプレイ:

- 米国で開始した金属調加飾フィルムのパーツ成形販売が増収に寄与。EV車向けエンブレムへの採用も複数控えており、成形工程における歩留まり率の向上が今後の課題。一方、フィルムの販売は、採用車種のモデルチェンジ前倒しによる減産や部品不足による生産調整により一時的に減少
- 自動車向け内装ディスプレイ用途の高透明多層フィルムはCIDやHUDの採用車種拡大するも、半導体不足による生産調整などにより売上高は前期比同等
- 事業拡大のための設備投資に伴う減価償却負担の増加や販売数量減少などに伴う生産効率低下により減益

その他:

- テレビモニター用導光板の販売開始も、仕入販売のため利益への影響は些少

■ ダイオ袋井工場 地中熱システムお披露目会を開催(2023. 7. 25)



式典の様子



地中からの採熱の仕組みを説明

- 週刊エコノミストに当社の株主総会の様子が取り上げられました

週刊エコノミスト 7/28・25合併号

Web記事はこちら

<https://weekly-economist.mainichi.jp/articles/20230725/se1/00m/020/023000c>

- 7/28放送のストックボイス「WORLD MARKETZ」で取り上げられました
地中熱ビジネスの可能性と今後の抱負を、代表取締役社長の石原が説明しています

ストックボイス「WORLD MARKETZ」

<https://www.youtube.com/channel/UCeW7dO9IXpvUQJcMEP1tv0g>

※動画の掲載期間は7/31から数日間

STOCKVOICE

番組・出演者 有料動画 オリジナル動画 相場概況 ブログ オピニオン プレゼント イベント お知らせ サポート

ウェーブロック HD (7940)

- 化学素材メーカー
- 防虫網国内首位 (シェア70%)
- 二酸化炭素排出抑制という世界の流れ
- 国内産業の大規模化も追い風に地中熱ビジネスを本格化
- 静岡県の大規模工場にヒートクラスターという自社技術の地中熱システム導入

日経平均株価 Nikkei 225

現在値	C	32759.23
前日比	Change	-131.93
始値	Open	32444.42
高値	High	32846.97
安値	Low	32037.55

WORLD MARKETZ

現在 ON AIR 2023/07/28 現在に移動 番組表を表示 (8/23時)

8:30-11:40 東京マーケットワイド ●松嶋泰弘 ●小川貴由美

8:30- NYマーケットコール ▲石光一影 / 野村グループInstinet

STOCKVOICE

ウェーブロック HD 石原智憲

我々のヒートクラスターというシステムは、他の地中熱システムと比べて

WM2倍から5倍の効率性の良さを誇っています

GUEST TALK

本資料における見通しは、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、今後の事業環境の変化により実際の業績が異なる可能性があります。
本資料に記載されている内容・写真・図表等の無断転載を禁止します。